

令和２年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

高い理想、深い叡智、重い使命を抱きつつ、次世代を牽引する真のグローバルリーダーを育成する学校をめざす。
1 知・徳・体の調和のとれた人間を育成するとともに、社会に貢献する志を持った、グローバルリーダーを育てる学校。
2 夢や志を実現できる確かな学力と探究力（自ら課題を発見し解決する能力）を身につけさせるとともに、生徒の進路希望の実現を図る学校。
3 三丘スピリット（文武両道、自主自立、切磋琢磨）を育むとともに、周りに気を配り支える心・人権尊重の精神を涵養する、安全・安心な学校。
4 機動的な学校運営体制を一層充実させ、教職員のたゆまぬ資質・能力の向上に取り組み、教育活動をはじめとする様々な活動の充実・活性化を図る学校。

2 中期的目標

【1】 生徒の夢や志を育み、国際感覚を育成
(1)GLHS(グローバルリーダース・ハイスクール)、SSH(スーパーサイエンスハイスクール)、SGP(スーパーグローバルプログラム:SGH の成果を踏まえた独自の取組み)、WWL(ワールドワイド・ラーニング)連携校にふさわしい「志学」や「キャリア教育」の推進
ア 進路意識の醸成：LHR 等で、社会の第一線で活躍する人材を有する同窓会等と連携し、大学等での最先端の学問や研究、仕事の最前線に触れさせる。
※ 学問研究に対する生徒の夢を育み、将来の進路選択への意識を高める「三丘セミナー」、「体感三丘セミナー」「体感校外学習」等の実施
【毎年 20 講座以上：H29 21 講座、H30 47 講座、R1 42 講座】【生徒満足度 90%以上：H29 95%、H30 90%、R1 93】。
※ 「CS (Creative Solutions：創造的課題解決) 探究」や大学のオープンキャンパスなどを活用した、学部や進路の選択支援。
※ 新大学入試や新学習指導要領につながる本校にふさわしい３年間を見通した進路・キャリア教育のプログラムの作成。【プログラムの完成・実施】
イ 高い志の育成：三丘セミナー、大学訪問、医療系職場体験プログラム等により、SGU（スーパーグローバル大学）等の見学会・体験事業を通じて社会に貢献する高い志や目標意識を育む。
※ グローバルリーダーとして高い志を育成するための進路講演会・懇談会の充実【生徒の満足度 90%以上：H29 86%、H30 88.3%、R1 89.1%】。
※ SGU 等の研究室訪問・見学会（年 5 回以上）、京大・阪大等の訪問・見学、東京方面キャンパスツアーなどによる、志の高いキャリア目標の醸成
【生徒満足度 90%以上：H29 86%、H30 88.3%、R1 89.1%】（再掲）。
※ 医療現場と連携した、医師・看護師などの医療系職場体験や医学部見学による、医療系進路への志育成。【医学部等進学者 30 人以上：H29 35 人、H30 28 人、R1 23 人】
(2)国際感覚の醸成とグローバルリーダーの育成
ア グローバルリーダーの育成：GLHS、SSH、SGP、WWL 連携校にふさわしい国際感覚や英語力を育成する
※ 3 年間を見据えた「4 技能を育成する英語授業」の構築・実施、内容の充実と、4 技能を育成する英語授業の英語科全体で取り組む体制の開発・構築。
【「コミュニケーションに必要な英語を学ぶ機会がある」生徒肯定的評価 70%以上：H29 80%、H30 82.5%、R1 83.8%】
※ 英語 4 技能型の外部試験（GTEC、TOEFL iBT 等）の受験勧奨・支援。海外進学支援【海外の大学等への進学者 1 名以上：H29 3 人、H30 0 人、R1 4 人】
※ 「CSⅠ・Ⅱ・Ⅲ」や SSH、SGP カリキュラムにより、「国際機関の現状と使命」や「世界の最新の知見」等を学ばせ、学習意識を高め、グローバルリーダーの素養の育成。
【GLHS 生徒卒業時アンケート「社会の役に立てる人」「世界で活躍できる人」各 60%以上】
イ 国際感覚の育成：国際交流企画の実施・充実により、実際に見、聞き、感じることから国際感覚を醸成する
※ アメリカ・スタディツアー(リーハイ大・NY、NASA・FIT)やフィリピン・リーダーシップ研修、オーストラリア・スタディツアー、海外修学旅行(H28 年以降台湾)など、海外研修等の実施、内容の充実
【各海外交流企画生徒満足度 90%以上：H29 90%、H30 99%、R1 99%】
【「国際交流に関する取組みが充実している」の生徒・保護者肯定的評価 80%以上：(生徒) H29 88%、H30 90.3%、R1 91.3% (保護者) H29 87%、H30 85.9%、R1 89.2%】
※ 海外からの交流生徒・短期留学生の受け入れ・交流の推進・充実【受入れ 30 人以上を維持：H29 86 人、H30 93 人、R1 105 人】
【2】 確かな学力・探究力の向上と進路希望の実現
(3) 質の高い授業による確かな学力・探究力向上
ア 質の高い授業の提供：真のグローバルリーダーにふさわしい確かな学力・探究力の育成のため、教材、授業方法、自学自習方法の研究・開発を行う。
※ アクティブラーニング・双方向授業等のための新たな教材、授業方法の研究・開発・蓄積
【授業アンケート結果の向上、授業満足度（生徒 80%以上、保護者 60%以上）：(生徒) H29 75.9%、H30 75.8%、R1 76.6% (保護者) H29 58.9%、H30 62.6%、R162.7%】
※ 「CS 探究Ⅰ・Ⅱ」（課題研究）や発表大会の実施・充実【生徒満足度 80%以上：H29 89%、H30 88%、R1 93%】
※ 教科指導力の向上に向けた、先進校の視察・報告等による研修会、研究・公開授業、相互授業見学などの実施。
【年 7 回以上の授業公開（外部公開含む）・研修会：H29 7 回、H30 6 回、R1 6 回】
イ 学力向上の取組み：学力向上と学習意欲の向上を図る授業以外の機会・場・方法の工夫創出・支援指導を行う。
※ 「三丘スタディハート」・「実践的な科学実験」の実施・充実
※ 1・2 年生で効果的な授業の受け方の習得、自学自習力の向上、講習会の実施・充実【スタディサポートなどの結果向上】
※ 基礎的、基本的な学力の向上のための読書量、読書時間の確保。【読書量増加に向けた取組みの実施 1 年間の読書冊数 3 冊以上】
(4) 進路希望の実現：生徒自らが適切な進路を選択できるための指導・支援と志望力を一層高めるため、進路指導体制を強化・充実する。
※ 生徒の進路意識の醸成のため、進路交流会などを利用した、卒業生等による学習・進路相談の充実。【年間 5 回以上：H29 9 回、H30 9 回、R1 11 回】
【進学指導に対する生徒の満足度 80%以上：H29 86%、H30 88.3%、R1 89.1%】
※ 進路指導・進路ホームルームの充実と 3 年間を見通したキャリア教育プログラムの進化・深化。
【国公立大学等（東大、京大、阪大、神大、市大、府大、医学部医学科）現役進学者 40%以上】(H29 35.6%、H30 31.9%、R128.3%)
【3】 基本的な生活習慣の確立と自主自立・人権尊重の精神の涵養
(5) 生活習慣の確立と三丘スピリットの育成：自己をコントロールし、規範ある集団生活を営むことができるよう、「集中と切替え」ができる態度を養う。
※ 集会や HR 等で啓発することなどによる、時間をコントロールできる意識・習慣の醸成。【年間遅刻総数 1000 未満：H29 1365 件、H30 1211 件、R1 2168 件】
※ 部活動や学校行事を通じて、「三丘スピリット」のもと、豊かな人間性とリーダーに必要な資質・態度の育成。【部活動加入率 90%以上：H29 96.4%、H30 96.0%、R1 94.4%】
※ 生徒の悩みや不安などに対応するため、カウンセリングやコーチングについての研修などによる、教育相談やカウンセリング機能を充実。
【「カウンセリング等を受けることができる」70%以上：】
(6) 人権尊重の教育推進：情報リテラシー育成など今日的課題をふまえつつ、グローバルリーダーにふさわしい豊かな人間性や資質を涵養し、あらゆる場面で人権教育を推進する。
※ 各学年または学校として、年 1 回以上の人権講演会および人権 HR 等による、人権意識の涵養。
【「人権などについて学習する機会がある」生徒肯定的意見 50%以上：H29 53%、H30 66%、R1 86.7%】
※ 今日的課題を含めての研修や、人権教育推進委員会と学年・分掌などの恒常的な連携による、全教職員の情報共有、課題解決に向けた取組み。
【研修等年 1 回以上：H29 1 回、H30 1 回、R1 1 回】
【4】 機動的な学校の運営体制の充実、開かれた学校づくり、教職員の資質・能力の向上
(7) 機動的な学校運営：学校経営計画の学校の目標や取組みを共有・実行し、常に教職員が課題や改善点を意識し、次年度につなげるため、組織的・機動的な学校運営を行う。
※ 評価・育成システムにおける教職員個々の設定目標を学校経営計画と連携・関連させた、進捗状況での支援、達成状況における確認。【各教職員の目標達成状況】
※ ICT 環境の整備・充実と機動的な情報伝達による一層の情報共有化・業務の省力化を図り、ICT 統合及び校務処理システムの円滑な実施。
【「校務の ICT 化推進」教職員肯定 70%：H29 87.2%、H30 71.1%、R1 77.8%】
※ “働き方改革”を踏まえた取組みに向けて、「主体的に対話的な、深い“しごと”」を意識し、より効率的・効果的な業務執行・組織運営。【「職員会等が情報交換・課題検討の場として有効に機能している」教職員 H29 38.3%、H30 36.8%、R1 58.3%】
(8) 安全・安心で開かれた学校：安全で安心できる学校であるため、緊急事態発生時の対応や危機管理体制を整備・実践する。
※ 管理職自らが率先して校内・校外を見回るなどによる、危険箇所や整備の必要な施設・設備の把握、改善。
【「学校は様々な危険防止に取り組んでいる」生徒評価 75%以上：H29 74.2%、H30 79.1%、R1 77.7%】
※ 登校指導時・各授業時間等における、生徒の状況や課題の把握、教職員間の情報交換・連携指導。教育相談機能の充実。【学期 1 回情報交換会、ケース会議の開催】
※ 保護者や地域との連携、及び、Web ページを通じた教育活動等の発信。
【「学校は、保護者から意見をきく機会を多く持っている」に対する否定的意見が 15%以下：H29 17.6%、H30 15.8%、R1 15.8%】

府立三国丘高等学校

(9) 教職員の資質・能力の向上：「真のグローバルリーダーを育てる」学校の一員として、常により高みをめざす教職員を育成する。 ※ 若手教員の勉強会「三究会」を中心に、ベテラン教員からの知識・技術の伝授、国や府の事業も活用した研修等により、若手教員の育成を図る。 【年間5回以上の研修：H29 5回、H30 3回、R1 5回】 ※ 授業力向上などをめざし、校内研究授業を学期ごとに開催するとともに、先進校や教育産業等が主催する研修等への参加勧奨・支援。 【年間延べ50人以上：H29 55人、H30 61人、R1 58人】 ※ GLHS、SSH等の研究・開発に積極的に取り組むことによる、先進的な取り組みや最先端の研究の本校教育への活用。【GLHS、SSH事業の評価】

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見
A 肯定的意見（「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計）が高い項目 【生徒】・文化祭・体育祭や部活動において生徒は自主的に活動している（91.1%）・プロジェクタ等の映像機器を活用した授業は効果的である（91.0%）・学校生活は楽しく、入学して良かった（87.3%）など5項目 【保護者】・お子様にとって、学校生活は楽しく、入学させてよかった（92.2%）・文化祭や、体育祭、部活動等において、生徒の自主性が発揮されている（89.7%）など4項目 B 否定的意見（「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計）が高い項目 【生徒】・大学受験にあまりとらわれない学習活動にも力を入れてほしい（38.3%） 【保護者】・大学受験に必要な科目にもっと重点を置いて授業をするべきだ（31.5%）・大学受験にあまりとらわれない学習活動にも力を入れてほしい（36.5%） C 経年変化の大きかった項目 【生徒】・こころの悩みや不安を抱えたとき、必要に応じて教育相談やカウンセリングを受けることができる。（肯定64.7%→71.5%）・土曜授業は学習効果があると思う。（1・2年）又はあったと思う。（3年）（肯定43.8%→52.2%） 【保護者】・授業参観や学校行事に参加したことがある。（否定7.7%→24.7%）・学校は保護者からの意見を聞く機会を持っている。（否定15.8→21.1%）他2項目 ≪総括≫ ○生徒における肯定的意見が多かった項目を見ると、制限の多い1年であったが、その中で様々な活動を楽しむことができていたと考えられる。今後も生徒のニーズにも応えつつ、より効果的な教育活動を模索していく必要がある。 ○5年前と比較すると「授業に満足している」とする生徒が増え（7%増）、「受験勉強にもっと重点を置いてほしい」という生徒が減ってきている（9%減）ことから、生徒の要望に沿った授業が行われていると考えることができる。教科内でさらに連携し、授業の質を保証するべく務める必要がある。 ○進路指導に関する項目は例年同様高い数値で推移している。今年は、休校措置、共通テスト導入など、3年生にとって激動の1年となったが、休校中の「G Suite for Education」の導入やきめ細かい進路指導の提供、再開後の講習の実施などにより、不安を取り除く一助とすることができたのではないかと考えている。 ○保護者の否定的意見が高かった項目については、新型コロナウイルス感染症拡大による学校行事の中止や縮小等により、参加いただけなかったことが主な原因であると思われる。 ○「土曜授業の実施」については、肯定的な意見が増加している。4月より休校が続いたことにより学習に対して不安を抱き、土曜授業がその保障として捉えられた可能性もあるが、引続き学校として最良の方法を模索していく必要がある。	第1回（8／31）【昨年度及び今年度の取組み報告】 ○ 新型コロナウイルスの影響のため、今までとは違う生活様式の中で、ストレスを感じている生徒もいると思う。日頃からのメンタルケア対策については理解した上で、文武両立に加え、いつも以上のメンタル強化教育を行ってほしい。 ○ このような時期をチャンスと捉え、生徒の意識、行動を前向きに動かす働きかけをすべきである。 ○ 生徒の成長の様子をより積極的に保護者や中学生に発信すべきである。 ○ 日々の地道な授業実践を通して生徒の成長を促すことが大切であり、引続き授業力向上に努めてほしい。 第2回（1／8）【今年度の進捗状況報告】 ○ 読売教育賞や全国高校生フォーラムの受賞について、例えば実践研究のような形で一般化するなど、積極的に情報発信していくことはできないか。 ○ オンラインを活用した取組みについては、最前線の情報や活用例について情報収集し、さらに推し進めるべきである。生徒が社会に出たときに必要となるデジタル能力の育成につなげてほしい。 ○ 学校の発信する「進路だより」や学年通信がもれなく保護者に届くよう引続きホームページを活用するとともに、メーリングリストを導入してほしい。 第3回（3／3）【今年度の取組み報告及び来年度の基本方針の承認】 ○ 来年度、GIGAスクール構想において生徒一人一台の端末が整った際、新しい学習環境として授業や家庭学習に位置付けていくことが肝要である。 ○ 「大学受験にあまりとらわれない学習活動」と「大学受験にとらわれた学習活動」に対する意見に関して、二律背反ではない学校の方針を主体的、対話的に検討する深いプロセスが必要である。 ○ 学校教育自己診断を介して、保護者からの意見を聴取することは大きな意味のあることである。情報収集のための様々なチャンネルからのエビデンスに基づいた分析は更なる発展のために大切である。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生徒の夢や志を育み、国際感覚を育成する取組みの推進	(1)GLHS、SSH、SGP、WWL 連携校にふさわしい「志学」や「キャリア教育」を推進する A 進路意識の醸成 イ 高い志の育成 (2)国際感覚の醸成とグローバルリーダーの育成 A グローバルリーダーの育成 イ 国際感覚の育成	① 三丘セミナー等の充実。 ② 探究的学習「CS探究」、体感三丘セミナー充実。 ③ 科学の最前線にふれる機会として「東京方面キャンパスツアー」を実施。 ④ 新大学入試や新学習指導要領につながる進路・キャリア教育のプログラム充実・改訂。 ⑤ 進路講演会・懇談会などの取組み充実。 ⑥ 東大・京大・阪大等研究室訪問・見学等実施。 ⑦ 医師・看護師などの医療系職場体験や大学医学部見学を実施し、医療系進学者勧奨・支援。 ⑧ 学習意識高揚、グローバルリーダーとしての素養とリーダーシップ育成のため、ネイティブ教員による授業や海外事前研修実施。 ⑨ 3年間を見据えた4技能を育成する英語授業の構築と内容の充実。 ⑩ 英語教育の充実を図るとともに4技能型の外部試験の受験支援・勧奨。 ⑪ オーストラリア・スタディツアー、アメリカ・スタディツアー、フィリピン・リーダーシップ研修、海外修学旅行を実施。 ⑫ 海外交流生徒・短期留学生の積極的受入れ。	① 20 講座以上を維持（R1 年度 42 講座） ② 満足度 85％以上（R1 93％） ③ 満足度 85％以上（R1 100％） ④ 3 年計画の進路プログラム充実 ⑤ 実施回数 8 回以上（R1 10 回） ⑥ 実施回数 8 回以上（R1 19 回） 「適切な進路指導」生徒評価 85％以上（R1 89.1％） ⑦ 医療系体験・見学回数 3 回以上 ・医療系進学者の 5％増加（R1 23 人） ⑧ 事前研修満足度 80％以上（R1 100％） ・海外進学 1 名以上（R1 4 名うち 2 名合格、2 名受験） ⑨ 授業満足度 80％以上（R1 83.8％） ⑩ 英検 2 級以上取得者 30 名以上 ※指標の変更（R1：GTEC 受験者 640 名） ・「コミュニケーション英語を学ぶ機会」肯定的評価 75％以上（R1 83.8％） ⑪ 参加生徒満足度 90％（R1 100％ オーストラリアは 3 月実施） ⑫ 交流生受入れ 30 名以上（R1 105 人） ・「国際交流に関する取組み充実」肯定的評価 80％（R1 生徒 91.3％ 保護者 89.2％）	① 新型コロナウイルス対策を講じ、12 講座実施（○） ② CSⅠ94%、CSⅡ93%、三丘セミナー12 講座開講 ③ 中止 ④ 進路プログラムを基に学年指導を強化（○） ⑤ 進路講演会 1 回（web 開催）（○） ⑥ 京大見学会 1 回（web 開催） ・「適切な進路指導」生徒評価 85.4％（○） ⑦ 中止 ⑧ SGP 4 回、SSH 4 回実施満足 100%、海外進学 2 名（○） ⑨ 授業満足度 82.2％（○） ⑩ 英検 2 級以上取得者 139 名 ・「コミュニケーション英語を学ぶ機会」82.2％（○） ⑪ リーハイ大学オンライングローバル授業満足度 94.7％（◎） ⑫ 受入なし ・「国際交流に関する取組み充実」（生徒 81.8％、保護者 75.5％）（○）

府立三国丘高等学校

2 確かな学力・探究力の向上と進路希望の実現	(3) 質の高い授業による確かな学力・探究力向上 A 質の高い授業の提供 イ 学力・探究力向上の取組 (4)進路希望の実現	① GLHS・SSH 指定校・WWL 連携校として生徒の学力をしっかりと伸ばす教科・科目の教材開発、授業方法の研究。 ② 生徒自学自習（家庭等での学習）時間を2時間以上とする工夫・取組み。 ③ 授業アンケートや研究授業を活用した授業力向上。 ④ 学力向上と学習意欲向上のため、1・2年生の学年早期に授業および自学自習勉強法指導 ⑤ 課題研究（CS 探究）をイノベーション人材育成の観点から一層充実（SDGs を視野に入れて） ⑥ 基礎的、基本的な学力を高めるため「読書記録」や「図書だより」により読書指導を充実 ⑦ 実力テスト・模擬テストの振り返り・結果分析の整理・充実。 ⑧ 発展的専門的な学習を望む者には「三丘スティーハート」（進学講習）、三丘ドクター（医学部等））、成績不振者には「成績不振者講習」を実施。 ⑨ 学習・進路相談を充実させ、生徒の進路意識の醸成のため、卒業生との進路交流等の開催。 ⑩ 生徒自らによる適切な進路選択、大学への志望力を高めるための進路指導体制強化、“進路育成プログラム”の充実。	① 校内外授業公開・保護者向け授業公開計6回以上実施。（R1 校内外授業公開3回、保護者向け3回） ② 1、2年生1日2時間以上自学自習する割合50%以上（R1 50% 1年48%、2年52%） ③ 授業満足度 80%以上（R1 86.8%） ④ 授業・自学自習勉強法指導を実施、学習指導強化週間の実施 ⑤ 生徒満足度85%以上（R1 93%） ⑥ 1,2年：学期に5冊以上読書（R1 1年14作品、2年10作品とブックトーク1回） ⑦ 振り返り・結果分析方法、指導方法の策定（R1 業者模試後の分析会6回） ⑧ 三丘スティーハート・ドクター200回以上（R1 358回） 成績不振者講習 60回程度（R1 70回） 添削等個人指導の延べ人数（R1 589人） 現役合格者数増加（R1 154人） ⑨ 卒業生との懇談・相談会の年間5回以上（R1 11回） ⑩ 本校の進学指導に対する生徒の満足度80%以上（R1 89.1%）	① 実施せず。「G Suite for Education」を導入し、学力保障に努めた。（○） ② 1年49%、2年59%（平均54%）さらに自学自習の習慣づけを進めたい（○） ③ 93.2%（○） ④ 三丘エクゼレンス（自習室開放）23回（○） ⑤ CSⅠ94%、CSⅡ93%（○） ⑥ 1年8作品、2年7作品（◎） ⑦ 各学年において、業者模試実施後の模試分析会9回（○） ⑧ 三丘スティーハートおよびドクター261回、成績不振者講習84回（◎）、添削等個人指導延べ人数国語科353人、英語科300人 計643人（○） 現役合格者数 189名（3/24現在） ⑨8回（○） ⑩85.4%（◎）
3 自主自立・人権尊重の精神の涵養	(5) 生活習慣の確立と三丘スピリット育成 (6) 人権尊重の教育推進	① 遅刻指導の徹底、遅刻防止支援。 ② 部活動や学校行事を通じて「三丘スピリット」を育み、「集中と切替え」ができる生活態度育成。 ③ 豊かな人間性とリーダーに必要な資質を養うため、各種の行事や部活動を通じた指導。 ④ 人間関係の構築などの今日的課題をふまえつつ、リーダーにふさわしい豊かな人間性や資質を涵養。 ・人権教育推進委員会と学年や分掌が連携し、恒常的な情報交換を行う。	① 遅刻件数年1200件以内（R1 2学期末まで1362件） ② 1、2年生の部活動加入率95%以上を維持（R1 94.4%）、行事満足度80%（R1 94.0%） ③ 挨拶運動年2回以上、リーダー研修年1回以上実施（R1 挨拶運動2回、リーダー研修12回） ④ 各学年、年1回以上人権講演会、人権HR実施（R1 各学年1回実施） ・学校教育自己診断（生徒）「人権・環境・福祉に関して学ぶ機会」60%以上（R186.7%）	① 2学期末まで706件（○） ② 1、2年部活動加入率97.9%（○） ③挨拶運動5回実施、リーダー研修等10回実施（○） ④各学年1回実施（○） ・「人権・環境・福祉に関して学ぶ機会」84.0%（◎）
4 機動的な学校運営体制の充実と教職員の資質・能力の向上	(7) 機動的な学校運営 (8) 安全・安心で開かれた学校 (9) 教職員の資質・能力の向上	① 学校目標を共有し、教職員が課題や改善点を意識して、次年度につなぐため、評価育成システムの目標設定、校長の学校運営に関するシート等を活用。 ② 情報の共有化、ICT を使った業務の省力化のため、校内ITを全員が一層積極的に活用。 ③ 安全で安心な学校として、緊急事態発生時の危機管理体制・対応について、防災プロジェクトチームを立ち上げ検討。教職員研修等実施 ④ 生徒相談室の機能の充実、特に問題を抱えた生徒について、学年団での情報交換や連携指導。教育相談体制の周知の充実。 ⑤ 教育活動や学校運営 Web ページ 発信を充実。 ・学級懇談会を行うことにより充実した各学年保護者連絡会等を実施する。 ⑥ 文化祭や登録文化財「三丘会館」、芸術祭、各種講演会などを広く府民に積極的に公開。 ⑦ 新着任教員が新しい職場に早期に適応できるように研修を実施し、教職員の資質向上を図る。 ⑧ 学力向上のため授業力向上をめざし、校内研究授業を開催するとともに教育産業等の授業研修受講を支援する。この取組みを通じて、ICT 活用の更なる発展を図る。	① 学校教育自己診断教員評価「学校経営に教職員の意見が反映されている」30%以上（R1 66.7%） ② 情報の共有化等研修を1回以上実施（R1 1回） ③ 各学期1回以上の研修を実施、備蓄・避難所体制等の検討・計画、防災宿泊体験訓練検討・充実（R1 研修3回、安全点検3回） ④ 「支援カード」活用強化、ケース会議等開催 ・「教育相談だより」年6回発行（R1 6回） ・「相談できる先生がいる」75%以上（R1 77.6%） ⑤ 「保護者から意見をきく機会を多く持っている」の否定的意見が15%以下（R1 15.8%） ⑥ 地域住民、府民など公開する行事を年間 3日以上設定する。（R1 5日） ⑦ 三究会（勉強会）の開催（年3回）（R1 5回） ⑧ 校内研究授業 各学期1回実施（R1 3回） ・教育産業等の授業研修や他校の研修に年間50人以上参加（R1 58人）	①62.5%（◎） ②オンライン研修2回（○） ③教員防災研修6月実施 防災PT4回、防災教育実践委員会3回実施（○） 安全点検 学期ごと3回実施 ④ケース会議6回実施（○） ・「教育相談だより」7回発行（○） ・「相談できる先生がいる」75.0%（○） ⑤否定的意見21.1%（△） ⑥3回実施（学校説明会3回）（○） ⑦三究会のかわりにオンライン PT として活動、校内でのグループウェア運用推進、教員研修等を企画、実施。（◎） ⑧新型コロナウイルス対策のため、校内研究授業実施せず（一） ・教育産業等の授業研修や他校の研修への参加24人（○）